



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	医系学生への情報探索実態調査：押しつけの「支援」をしないために
Author(s)	川村，路代；松尾，博朋；坂本，ゆう子 他
Description	第32回医学情報サービス研究大会（札幌，2015年7月18日-19日）ポスターセッション（19日） http://mis.umin.jp/32/program/index.html#both01
Issue Date	2015-07-19
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/59760
Type	conference presentation
File Information	P-08-poster.pdf



医系学生への情報探索実態調査

押しつけの「支援」をしないために



川村 路代、松尾 博朋、坂本 ゆう子、笠井 美由紀 | 北海道大学附属図書館

Introduction

北海道大学附属図書館 情報リテラシー教育支援 WG 医系分科会では、学生へアンケート、インタビュー、情報探索行動の観察調査を行っている。学生の情報探索のメカニズムに迫ることはもちろん、北大生の学習や潜在的な要求を把握し、学習支援や情報リテラシー教育をユーザー視線のものとして再設計するのが主な目的である。本報告では特に文献の検索・入手の様子に絞り考察を行った。

結果、Google や無料のツールを使用し課題に取り組む一方で、図書館ウェブサイトや有料のデータベースはほとんど利用しない様子が特徴的であった。また情報探索の知識やレベルは多様であり、そこには図書館開催の講習会を受講したかどうかよりも、先輩からの指導と実際の利用経験が大きく影響しているように見受けられた。

Methods

【調査対象】 北海道大学の医系学部(医学部(保健学科含む)、獣医学部、歯学部、薬学部)に所属している学生4名

【調査手法】

(1) 事前アンケート調査：普段の学習の様子、学習場所、論文の検索経験、検索方法の修得経緯、図書館・室の利用経験、ICT の利用状況など

(2) インタビュー調査：事前アンケートの回答の詳しい背景や図書館への意見・要望など

(3) 観察調査：いくつかの課題(「血液型が O 型の人には蚊に刺されやすい」と言われることがあるが、その根拠となった実験や論文を挙げて真否について意見を述べよ」等)を与え、学生の情報探索行動を観察、PC 画面録画ソフトとビデオカメラで記録した。

Results and Discussion

- 医学部医学科：従来型の教育(知識伝達・暗記・タイトなスケジュール・テスト重視)
- 獣医学部：少人数のため AL、レポート添削など細やかな指導
- 医学部保健学科：4 年次は卒業研究と実習

情報探索課題の結果 「血液型が O 型の人には蚊に刺されやすいか？」(回答時間 10 分)

利用したツール

医3年	Google + PubMed + Wikipedia
獣5年	Google + Google Scholar + Web 辞書
保4年	Google のみ
医3年	Google のみ

誰も使用せず

探索結果

特徴的な行動

検索語の追加と再検索を繰り返す

附属図書館ウェブサイトのデータベースを探す検索窓へキーワードを入力

業績リストまでたどり着いたが…

「検索結果一覧から離れたページの閲覧が少ない」江草 (2009)

「信頼性がないとしか言いようがないです…」

Wikipedia を語句の確認に用いる

※「anopheles gambiae」はハマダラカという蚊の一種

リンクリゾルバは使用せずに本文 PDF にアクセス

上の学生と比較して、ブラウザの操作(タブの使用等)に習熟

情報の読み取り・吟味・評価◎

検索の流れ

Google 検索

①「蚊に刺されやすい人 血液型」②「蚊にさされやすい人 血液型 論文」③「蚊 血液型」→no hit

④

⑤

⑥「白井良和」⑦「白井良和 蚊」⑧「白井良和 蚊 論文」⑨↓↑⑩

⑪

⑫

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

論文 Abstract Ab Ab Ab Ab 論文本文

検索の流れ

Google 検索

①「PubMed」④「blood type」⑧「mosquito」⑫「anopheles gambiae」⑯「※論文名」

①↓②↓③↓④↓⑤↓⑥↓⑦↓⑧↓⑨↓⑩↓⑪↓⑫↓⑬↓⑭↓⑮↓⑯↓⑰↓⑱↓⑲↓⑳↓

Google 検索結果

PubMed

Wikipedia

Nature

⑩「abo blood mosquito」⑪

⑬

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

論文 Abstract Ab Ab Ab Ab 論文本文

(論文の調べ方や読み方は)先輩の叱咤によって「できないといけななんだな」と思うようになりました。「論文何個読んだんですか? どうやって選んだんですか? 何という単語で検索して、いくつヒットして、何がわかっていてわかっていないんですか?」などの、要点を把握していれば答えられるはずの質問をされます。答えられないと「何で調べてないんだよ」と怒られるというか「ありえない」という感じ。怒られるのも嫌なので調べるようになりました。

「うっすらと論文検索の必要性は感じているんですけど…Google が個人的に好きなので。データベースの使い方を教える授業があったらいいんじゃないですかね?」

Conclusion

- 学生は無料のツールを使用し、図書館ウェブサイトやそこからリンクされた有料データベース、リンクリゾルバの利用は見られなかった。本調査の課題に限れば、情報探索や考察の過程・結果に大きな問題がない学生もあり、例えば Wikipedia ではなく、卒業後は利用できない Japan Knowledge 等の有料ツールの利用を積極的に薦める根拠は薄いように思われた。学生の視点に立ったりテラシー教育を構築したいのであれば、図書館が提供しているリソースの教授にこだわると、かえって利用者の探索行動に制約をかける恐れがあるように思われる。
- 本調査そのものが教育の場となりうる。まず課題を解き、一旦つまづいた後で、自身の情報探索プロセスについて図書館員からの評価とアドバイスを個別に受けることで、学生は現状の知識を引き上げることができる。多様な学生のレベル・要求に応じるための手法として、本調査はひとつの可能性を示唆している。

【参考文献】
・江草 由佳, 高久 雅生, 齋藤 ひとみ et al. (2009) Link Depth : Web 情報探索行動の閲覧パターンの分析, 情報処理学会研究報告・データベース・システム研究会報告, 148 p.T1-T7